

**気温が高く少雨の日が続いています。ほ場の水管理に注意しましょう。**

直播コシヒカリ調査田は、近年と比較して草丈は長め、茎数は少なめ、葉色は淡く、葉令は進んでいません。

幼穂形成期は昨年より1日、近年より2日早い7/18に迎えています。

	播種日	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉色	葉令	幼穂形成期	出穂期
今年	5/3	76.9	487	3.9	11.6	7/18	予想(8/7頃)
去年	5/3	78.0	554	4.1	11.2	7/19	8/8
近年	5/3	75.8	554	4.1	11.3	7/20	8/10

※近年は平成 18～22 年の 5 年間平均

## 1 幼穂長 1.5cm 時の生育診断に基づく管理

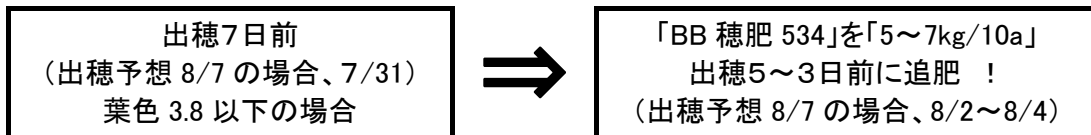
表 幼穂長 1.5cm 時の目標生育 (幼穂形成期が 7/18 頃の場合は 7/26 頃)

草丈	茎数	葉色
78cm	m <sup>2</sup> あたり430本 (mあたり130本)	3.5

- (1) 目標値より草丈が長く、茎数が多く、葉色が濃い場合は、落水期間を長くして間断かん水を行います。
- (2) 第5節が5cm以上、第4節が10cm以上の場合は、倒伏軽減剤の使用を検討して下さい(営農指導員、普及指導員にご相談下さい)。

## 2 出穂前の追加穂肥

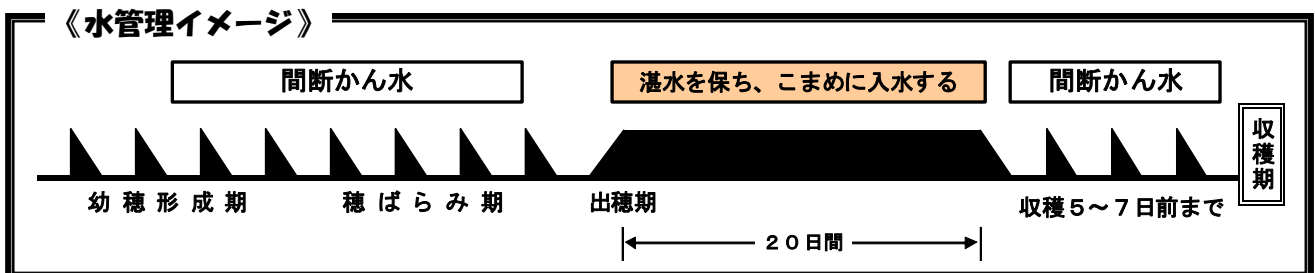
基肥一発肥料でも出穂7日前に葉色が淡い場合は、追肥を行ってください。



注意：葉色は、太陽を背にして見てください。

## 3 今後の水管理

- (1) 出穂期までは間断かん水を基本とし、葉色が濃い場合や、ほ場が軟らかくて足跡が5cm以上沈み込む場合は「落水期間をやや長めに」しましょう。
- (2) 出穂期から20日間は2～3cmの湛水状態を保ち、その後、収穫の5～7日前までは間断かん水を行いましょ。
- (3) フェーンの発生が予想される場合は事前に入水し、土壌水分が不足しないように注意する。



## 4 基本防除 (裏面をご覧ください)

作業が終わったら、生産履歴とGAPチェックシートを記入しましょう。

## 4 基本防除

- ①防除は生育ステージに合わせて行い、散布間隔は10日以上あけないでください。
- ②風のない朝方又は夕方に株元まで薬剤がかかるようにゆっくり散布しましょう。

直播コシヒカリ (5/3播種 出穂予想8/7頃の場合)

<粉剤・液剤体系>

防除体系	出穂直前 8/3~7	穂揃期 8/10~14
粉剤	ノンブラストレボン粉剤 DL 4kg/10a	ラブサイトキラップ粉剤 DL 4kg/10a
液剤	ノンブラスフロアブル:1,000倍 トレボン乳剤:1,000倍 150ℓ/10a	ラブサイトフロアブル:1,000倍液 キラップフロアブル:1,000倍液 150ℓ/10a

<粒剤体系>

粒剤	出穂の5~10日前 7/28~8/2頃
	コラトップダントツ1キロ粒剤 1kg/10a

※散布後4~5日間は湛水状態を保ち、7日間は落水しないでください。